

---

# 時間屋

衣魚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

時間屋

### 【Nコード】

N3286T

### 【作者名】

衣魚

### 【あらすじ】

二二一年。この世はまたあの『悪魔』に支配された。オツペンハイマーの造った、悪魔だ。色のない、ガレキの街から全ては始まる。

ガレキの街並みは、地平線の焼失点まで限りなく続いているようだった。

灰色。私の目が腐っているのかもしれない。だからここは、こんな景色なのかもしれない。いや、そうであって欲しかった。

私の目から、もう涙は出ないんだもの。いくら悲しくても、いくら苦しんでも。だからきつと、私の目がおかしくなっているだけなのだ。こんなにも色の無い街を、私は見たことがない。こんな、地球上にはありえない光景。

灰色は死の色だ。あらゆる色素が抜け落ちた色。しかし、僅かに私たち人間が生きていた証拠を残すから、真っ白にはならない。だから死の色。死は生があるからこそ存在する概念だ。どうせなら、きれいさっぱり何もかも消し去って欲しかった。生がなくなるなら、死の悲しみもないでしょう。けれど私は、生としてここに残ってしまった。

残された僅かは、このガレキの街で、一体どうすれば良いのだろう。限りなく真っ白に近い、この街で。

さっき私は「いくら悲しくても」と言ったけれど、本当は私、あまり悲しくないの。本当に悲しいのなら、こんなお喋りできやしなもの。なぜだか私は、幾分せいぜいした心地だ。檻を破って、飛び立つ鳥みたいな。でも鳥はね、飛ぶことしかできない。鳥は自由っていうけれど、本当に飛ぶことは自由かしら。

……こんな汚い心だから、まだこの煉獄で暮らしておけというわけなのかもしれない。この、地獄に限りなく近い煉獄で。

放射線というものが、この地上を汚しているらしい。だったら私は鳥になって、毒まみれの大空を、あの黒くてきれいなキノコ雲の只中を、カアカア鳴いて回ろう。カアカア、カアカア、カアカア。

きれいな黒は毒の色。毒の雨で鳥の行水。錆びた鉄の味がする。硝煙の匂いがする。肌が、熱い。

黒の翼じゃ天国へ行けないわ。思いながらガレキの街を空から見下ろすと、灰色は黒に変わっていた。黒は、絶望の色。私は、地獄へ落ちていくのね。そう思いながら見上げた空は青かった。私はあのキノコ雲を突き破っていたのだった。

脱色された私の羽根は白。私は白い鳥。

日本列島の形に黒い色。世界の形に黒い色。

カアカア泣きわめく鳥の声が聞こえた。白い鳥の大群が、天国を目指してもがいているのだった。そして私も、その中の一人だ。

さて、おそらく一、二分間が経過したわけですけども。正直に言いましょ。ストーリーも何も考えずただ書き綴られた意味不明文をご覧いただき、誠にありがとうございました。

あなたの時間は、正常に、買い取らせて頂きましたよ。

なに。この一、二分は、癌など、重病の方々のために寄付するの

です。決して私欲のためには使いません。

それでは、ご協力ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3286t/>

---

時間屋

2011年11月12日19時29分発行